

八世政義履歷草稿

天保五年津二番町ニ生ルハ歳ニ
 母ヲ喪フ九歳ニテ亦父ヲ喪フ幼童
 ニテ双親死スルノ不幸之レヨリ大志
 ハ莫ク且之ノ時ニ當テ祖父年七旬ヲ過
 ルト雖モ幸ニ死未タシ然リト雖モ我
 年如クニテ一戸ヲ維持スル能スニ茲ニ於テ
 即地ヲ奉還還ニ羽立年五月祖父公羽
 ニ從フテ亡父ノ葬山崎長久ノ家ニ同
 居ス又喪ニ一ノ第アリ。歳僅ニ二柩ニテ
 亡父ノ妹磐山岡直清氏ノ女抱ヲ
 受ク去々年父歿スルノ際ニ臨ニテ上表
 相續情ヲ示キテ故跡目相續祿
 故ノ如ク百二十石ヲ賜フ嘉永三年十
 歳時十有七騎馬殿西見羽白并
 同年四月江都ニ出テ幕中臣落合
 氏ノ門ニ入り研究スル一累年果シテ
 談門ノ奥傳ヲ受ケ夫レノ賞員トシテ

金ヲ賜フ同五年馬醫本役ノ金ヲ
拜ス具ヨリ先キ嘉永三年六月終ニ
祖父福平ス年八十有二吾始テ嘉永三年
馬醫由見習ノ金ヲ受ケシヨリ明治
二年藩治改革ノ際ニ至ルマテ馬醫
ヲ勤ムル一二十年此ノ年間一時馬醫
加役一時大小姓加役一時組士加役其
他將軍家エノ使者等ヲ勤ム又主
君ノ供奉或ハ江府諾勤番殆ト十

万石

度ニ及フ亦各地出張數度ニシテ終ニ
東征ノ役ニ至ル其力都度杖栗キスル
ニ違非ラス賜物廩每賞トシテ給
賜アリ屢々ナリ東征鎮定際賞
トシテ服及ヒ金若干ヲ賜フ具ヨリ先
キ安政元寅年丸ノ内ニ於テ仮ニ官
有ノ長屋ヲ借領シ再ヒ門戸ヲ張ル
トシ得搦モ兄弟等トモ山崎山岡ニ氏
ノ恩護ヲ受ルル一親ニ十一年將タ

少年ヨリ仕年ニ至ル文武ヲ藩校ニ
學フ就中系柔劍馬ノ三術ニ於ケル
各傳ヲ受リ明治二年藩政改革
ノ時ニ當リ職ヲ轉シ士隊分隊長
ニ拜ス同三年五月更ニ命ヲ士隊
半隊長ニ授キ同年十二月朝旨ノ
アルニ由リ士隊解隊全十二月解
隊ノ事ニ因テ藩ニ内渡ヲ生ス是
ノ時主君ヨリ直ニ内命ヲ受ケ鎮
撫ノイテカハ賞トシテ金ヲ賜フ同
月鎮定ノ后ニ更ニ常備兵ヲ
編制スアリ是ノ時命ヲ一等半
隊長ニ拜ス全五年一月廢テ藩置
縣ノ際ニ當リ常備兵解隊トシ
同月安濃津縣敬言備掛ヲ拜命ス
同年四月縣廢テ三重郡ニ移シ
号シテ三重縣ト稱ス是ノ年五月
敬言備掛リテ解職トシ同六月

副中長ヲ拜命ス疾ヲ以テ辞ス合六年
二月公三安濃津孝學日付役ニ
補加同八年七月ニ至ルマテ務方同月
管内ノ師範學校ヲ安濃津ニ
開設アリ其時該學舎長ヲ
拜命ス同九年九月轉シテ文字區
取締ニ任セラル同十二年三月區畫
改正ノ際學子ニ取締ヲ補任職ノ
令アリ始^モ嘉加永三年旧サ藩馬場西
役ニ就テヨリ合明治十二年學子區
取締解職ニ至ルマテ三十年間
ニシテ非役ニ在ル一僅ニ半年微力
ナル者ニシテ謂ツバシ僥倖ト

明治十三年二月